



「寿大学」開校式での粟市長

ごあいさつ

平成 29 年 5 月 9 日

新緑がまぶしい季節を迎えました。市長室から見える山々の緑が日増しに濃くなっていきます。時おり、市役所横のあらみや公園には、市外からの小学生が遠足に来ています。明るい日差しのなかで公園内を元気に駆け回る子どもたちを見ていると、自然と気持ちが和みます。

新年度を迎え、いろいろな団体活動の総会への出席や、今年度の事業のはじまりにあたり出席することが多くあります。先日も中央公民館で今年度の「寿大学」の開校式にお呼びいただきました。今年度の寿大学の受講生は 50 人、さらには専門的に学習される「寿大学院」に進まれる 199 人の皆さんの積極的に学ばれる姿勢には頭が下がります。

中央公民館の田多野館長からうかがった生涯学習の「かきくけこ」をご紹介します。

「か」・・・感動する

「き」・・・興味を持つ

「く」・・・工夫する

「け」・・・健康でいる

「こ」・・・恋をする

なるほどなあと思いつつも、「こ」の恋をするというのは、いささかドキッとします。ときめきを持ってワクワクするというのではないかと思います。いつまでも好奇心を持ち続け、新しい知識や技術を得ることは生活に彩りを与え、心の豊かさをもたらしてくれます。

現在、建設中の文化交流拠点施設「学びの杜ののいち カレード」は 11 月 1 日にオープニングセレモニーを予定しています。待望の市立図書館と市民学習センターの機能をあわせ持つ施設として、これから大いに活用していただければと思います。

「カレード」のみならず、中央地区整備事業として、現在の中央公民館と旧役場庁舎、ののいち一番街の用地を取得させていただき、ここを地域の交流拠点としてにぎわいを創り出す計画を進めています。そのため、7 月末には中央公民館も閉館いたします。

昭和 52 年に開館し、本町地区の地区公民館「野々市公民館」の役割もかね、さまざまな教室やサークルの活動、文化祭、文化会館フォルテの開館前は成人式や椿まつりの会場としてにぎわい、多くの思い出深い地域の交流の場として利用されてきた中央公民館ですが、40 年にわたる役割を少しだけお休みということになります。平成 31 年 4 月には新中央公民館として、再び皆さんのお目にかかり、この地域の交流拠点施設の核となることと思います。

時代がそのとき必要とするのは、新しい社会のシステムであつたり、機器や建物であつたりします。しかし、それを駆使するのは私たちです。人間のさまざまな感情というのは、時代に関係することなく、そう変わるものではないと思います。

「学びの杜ののいち カレード」がオープンする日、私も楽しみにワクワクしています。「こ」の恋をするというのは、こういう気持ちなのかもしれません。